

特集

保健師の 継続教育 を考える



大学院での学びは現場でどう活きるのか

保健師には地域住民への幅広い支援に加え、地域資源の開発や施策化など多様な活動の展開力が求められるため、職場での教育・研修のみならず、自己啓発や自発的な学びが重要です。本特集では、そのなかでも大学院へ進学して学ぶ意義や、その学びが実践においてどう活きるのかについて、大学院で指導する教員、進学を経て現場で活躍する保健師両方の視点から、考えていきます。また、大学院への派遣聴講体制を整える豊田市の取り組みと成果を紹介します。

- **保健師は学び続けなければならない**
保健師活動を取り巻く社会環境とキャリアの開発
- **【保健師としてのキャリアアップを図る継続教育】**
- **大学院次世代看護リーダーコースにおける教育とその意義**
兵庫県立大学大学院看護学研究科の取り組み
- **大学院博士前期課程 CNS コースにおける教育とその意義**
新潟大学大学院保健学研究科の取り組み
- **【大学院での学びはどう活かされているのか】**
- **「研究プロセス」の全ての学びが現場でも活きる**
博士前期課程研究コースに進学して
- **理論や思考過程の学びが実践をより良くする**
修士課程 CNS コースに進学して
- **豊田市における継続教育支援体制**
大学院への派遣聴講で統計学を学ぶ